

北海道の電力を 自然エネルギーで 支えるために

送配電のあり方を考える

2018 **8.4** 土 13:30-16:30

北海道クリスチャンセンター 2階 ホール
入場料 資料代として 500円

- 基調報告 「地域主体の自然エネルギー電力の活用
～ FIT 制度と北海道の循環型酪農業～」
北海道大学 名誉教授 松田従三氏
- 講演 1 「自然エネルギーの導入拡大に向けた系統運用の転換」
九州大学 准教授 分山達也氏
- 講演 2 「電力会社の歴史から考える送電線の公共性」
北海学園大学 教授 小坂直人氏
- 休憩
- 現場からの報告 株式会社エネコープ
ソーラーフロンティア株式会社
JA 士幌町
- パネル ディスカッション
司会 北海道大学 助教 酒井恭輔氏
パネラー 講師・報告者 6名

主催 北海道の自然エネルギー電力に関するシンポジウム実行委員会
後援 北海道経済産業局、北海道、生活協同組合コープさっぽろ
問い合わせ NPO 法人 北海道新エネルギー普及促進協会（NEPA）
080-2878-5282



北海道は自然エネルギーの宝庫と称され、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の導入以後、風力・太陽光発電が大幅に進みました。しかし、電力は送電線を経由して送る必要があるため、「送電線の空き容量が足りない」ことなどを理由に自然エネルギー電力の計画が進まない状況もあります。自然エネルギーを活用していくために、送電線を柔軟に運用する技術にはどのようなものがあり、公共性の高い送電線はどのように運用すべきなのか、多くの利害関係者が知恵を出し合って議論することが必要ではないでしょうか。今後、北海道の自然エネルギー利用量を増やすために、現在その普及にとって障害となっている諸問題を共有し、その解決策について開かれた議論を行ないたいと思います。

北海道クリスチャンセンター 2階 ホール
〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目
* できるだけ公共交通機関でお越しください

